

第65回全国公立学校教頭会研究大会
第51回東海・北陸地区公立学校教頭会研究大会
第56回石川県公立小中学校教頭会研究大会

石川大会のご案内

◇研究主題（全国統一研究主題 第13期1年次）――

「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」

◇サブテーマ――

「ふるさとに誇りを持ち 未来を切り拓く
心豊かな人づくりを目指す これからの
学校運営の推進」

◇サブテーマの設定理由――

国際化やAIの活用などによる科学技術の進展、価値観やライフスタイルの多様化など、私たちを取り巻く社会は急速に変化しています。さらに、長いコロナ禍の中で様々な教育活動が制限を強いられ、自由闊達に思い切り表現をしたり他者と交流したりする体験や心身ともに切磋琢磨する機会が以前に比べて減少したと感じます。そのような背景において、解決が困難な諸課題に立ち向かう心と力を兼ね備えた人づくりを目指し、未来社会の担い手である子どもたちに必要な資質や能力を育むことは、学校教育に課された重要な課題です。

また、自然や文化、歴史、伝統など、「ふるさと」の良さを認め、その大切さに気付くことは、子どもたちの感性を磨き、豊かな人間性につながると考えます。以上のことを踏まえ、石川大会ではサブテーマを「ふるさとに誇りを持ち 未来を切り拓く心豊かな人

づくりを目指す これからの学校運営の推進」としました。

◇開催期日 令和5年8月3日（木）・4日（金）

◇開催地 石川県金沢市

◇開催方法 参集型・オンライン型を併用したハイブリッド大会

◇一日目 8月3日（木）

①開会行事

②シンポジウム

「ふるさとに誇りを持ち 未来を切り拓く心豊かな人づくりを目指す これからの学校運営の推進」

【コーディネーター】

田村 学氏（國學院大學 人間開発学部初等教育学科 教授）

【シンポジスト】

長谷川 明子氏（加賀屋グループ 女将）

住田 昌治氏（学校法人湘南学園 学園長）

島谷 千春氏（加賀市教育委員会 教育長）

③記念講演

【演題】「豊かな感性を育む場所をつくる」

【講師】長谷川 祐子氏

【講師の紹介】金沢21世紀美術館 館長、東京藝術大学大学院国際芸術創造研究所 教授

キュレーター、美術批評。京都大学法学部卒業。東京藝術大学大学院美術研究科修士課程修了。水戸芸術

館学芸員、ホイットニー美術館客員キュレーター、世田谷美術館学芸員、金沢21世紀美術館学芸課長及び芸術監督、東京都現代美術館チーフキュレーター及び参事を経て、2021年4月より現職。文化庁長官表彰（2020年）

◇二日目 8月4日（金）分科会

○第一分科会 A・B 『教育課程に関する課題』

○第二分科会 『子供の発達に関する課題』

○第三分科会 『教育環境整備に関する課題』

○第四分科会 『組織・運営に関する課題』

○第五分科会 A・B 『教職員の専門性に関する課題』

○第六分科会 『副校長・教頭の職務内容や職務機能に迫る課題』

○特別分科会① 『時宜に応じた課題』

講師 上智大学 総合人間科学部 教授 奈須正裕氏

講師 加賀市教育委員会 教育長 島谷千春氏

○特別分科会② 『開催地の創意を生かした課題』

講師 作曲家・ピアニスト・即興演奏家 北方喜旺丈氏

講師 人材教育家・メンタルコーチ 飯山 昶朗氏

「これからの全公教研究大会における
スタンダードモデルの構築を目指して」

全公教全国研究大会はこの3年間のコロナ禍の中で、その開催方法が様々な形で模索されてきました。コロナ禍以前、本大会は夏季休暇中に3日間、約2,500名の会員が開催地に参集し実施されてきましたが、石川大会では今後の本大会の在り方について全公教と討議を重ね、持続可能なスタンダードモデルの構築を目指してきました。

その結果、過去3大会の成果を踏まえ、第65回全国公立学校教頭会研究大会石川大会は2日間開催とし、全国から約1,300名の会員の参集と約1,900

名のオンライン参加を併用しての「ハイブリッド方式」で開催することとしました。2日間開催とすることで参加者の負担を軽減できること、参集参加者の人数を縮小しオンライン方式を活用することで、より多くの参加者が気軽に参加可能であること等のメリットを考慮しての開催方法です。

開催方法の概要

◇1日目：開会行事、シンポジウム、記念講演

まだコロナ感染症対策が緩和されていないなかった計画時、参集参加者1,300名が一堂に会することは難しいと判断し、全体会は7施設10会場に分散してのリモート視聴での開催としました。また、全国28,000名の会員に対しては、ライブ配信にて視聴していただく予定です。

教育現場やその他の分野にて活躍されている石川県の著名人をシンポジストや記念講演講師にお招きました。多面的な考え方やものの見方をご教授いただけることが期待されます。

◇2日目：分科会、閉会行事

分科会については、参集型・オンライン型共に事前に編制されたグループ（1グループ6名）に分かれて協議を行います。オンラインでの参加は、昨年度の岩手大会と同様にZoomのブレイクアウトルームを利用します。全国各地の副校長・教頭が集う分科会は、具体的な実践や課題を交流できる大変貴重な時間と考えます。提言者の提言を受けて「協議の柱」に沿った活発な協議がなされると考えます。

本大会を成功させるために

8月の本大会開催を見据えて、1月にオンライン開催による提言者研修会が金沢にて実施されました。

◇提言者研修会の目的

1. 提言者の提言を受けて本大会の協議が活発に行われ実りあるものとなるように、「協議の柱」を定める。
2. 本大会と同様にオンライン方式で運営を行うことにより、分科会運営に携わる役員が役割を確認し、本大会における円滑な運営ができるようになる。

当日は各分科会の提言者や助言者、全公教の役員・事務局、次年度及び次々年度開催事務局（高知県、茨城県）、石川大会実行委員会を含め約90名が参加しました。

はじめに全体会にて、「石川大会の意義」ならびに「石川大会の概要」「研究主題、サブテーマ、研究協議の視点」等について解説があり、参加者全員で共通理解を図りました。

分科会では提言に対する多くの質問や助言がなされ、本番に向けて伝えるべき内容が明確となるとともに、その方向性について確認を行うことができました。また、分科会ごとに運営責任者、提言者、助言者の間で「協議の柱」について話し合いが行われ、焦点化した「協議の柱」を決定することができました。

本番をイメージしながら進行やオンライン操作などに取り組んだことで、課題が明らかになったことも大きな収穫となりました。これらの課題については改善を図り、本大会の運営に反映させたいと考えます。

大会開催にあたって

教育現場における現状において、児童・生徒に付いた学力の定着および令和の日本型学校教育の確立、子供を取り巻く様々な問題、学校現場における課題の複雑化や多様化、教職員の働き方改革など、向き合う

べき課題は多岐にわたり、それらの課題解決に挑み、未来を切り拓いていく人づくりを行っていくことが学校教育の大きな役割となっています。この課題一つひとつに引き合い、保護者や地域に開かれた「魅力ある学校」を実現するために、私たち副校長・教頭が何をなすべきかについて、本大会で多くの意見が交わされることを願ってやみません。

石川の地から全国の副校長・教頭の皆様へ、多くの活力と示唆が発信されることを期待しています。現在、本研究大会の成功に向けて実行委員会を中心にオール石川県教頭会一同、鋭意準備を進めています。皆様の積極的な参加およびご協力をよろしく願います。



【本大会を想定しての提言者研修会の様子（1月）】